



埋文・アラカルト

平成23年度出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり

開催中

見に来てね！

「古墳に眠る石枕」をテーマに、今から約1,600前の古墳時代中頃の房総を代表する「石枕」を中心にご紹介する展覧会を7月から開催中です。

全国では、120例ほどの「石枕」がありますが、そのうちの約半数は千葉県内から発見されており、まさに石枕集中地域といえます。このような石枕も、古墳時代前期に西日本で展開する石枕を造り付けた石棺などをモデルとして独自に展開していったことが考えられています。

今回、5世紀の前半頃に始まり、6世紀の前半頃に姿を消すまでの約100年間、古墳の埋葬に使われた県内の石枕などを展示するとともに、分布の中心となる「香取海」周辺と、東京湾岸域の地域性などもご紹介します。



成田市猫作・栗山16号墳



千葉市上赤塚1号墳



熊本県玉名市院塚古墳の石棺と石枕

今後の展示会場・開催期間 千葉県立中央博物館 ◆ 12月24日(土)～平成24年2月26日(日)

平成23年度 千葉県遺跡調査 研究発表会

日時／平成24年1月21日(土) 午前10時30分～午後3時30分

会場／千葉県立中央博物館 講堂

交通案内／JR千葉駅から「大学病院」行きバスなどで「中央博物館」下車、徒歩7分

当日先着受付
定員200名

「石枕」が流行する、今から約1,600年前の古墳時代中頃に焦点をしばって、東国の様相や石枕の出現、その広がりなどについてご紹介いたします。

基調講演

●滝沢 誠氏（静岡大学文学部教授）
『古墳時代の東海と関東』

研究報告

●田中 裕氏（茨城大学文学部准教授）
『古墳時代中期における東関東の地域社会』

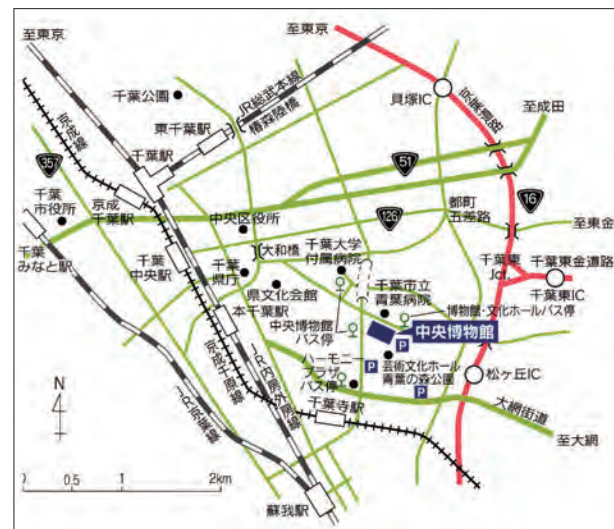
●根本 岳史氏（財団法人印旛都市文化財センター）
『台方宮代遺跡(2)1号墳と船形手黒1号墳—印旛沼東岸の石枕を有する古墳の調査—』

●白井 久美子（財団法人千葉県教育振興財団）
『石枕と葬送』

●小林 清隆（財団法人千葉県教育振興財団）
『房総の玉作遺跡』

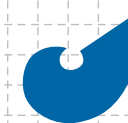
遺跡見学会のご案内

●平成24年2月 4日(土)：富津市西谷古墳
●平成24年2月 18日(土)：印西市東場遺跡
★詳細については当財団ホームページでご確認ください。



房総の文化財

VOL. 51



ISSN 0919-0848
Bosō no bunkazai

平成24年1月10日 財団法人 千葉県教育振興財団

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811 (代) FAX 043-422-8850

http://www.echiba.org/bunkazai_top.html



縄文時代中期（5,000年前頃）の貯蔵穴や竪穴住居跡が密集してたくさん見つかりました。遺跡見学会では、多くの参加者が古代の息吹を感じていたようです。（柏市小山台遺跡）

contents

発掘調査速報

柏市小山台遺跡

遺物紹介コーナー

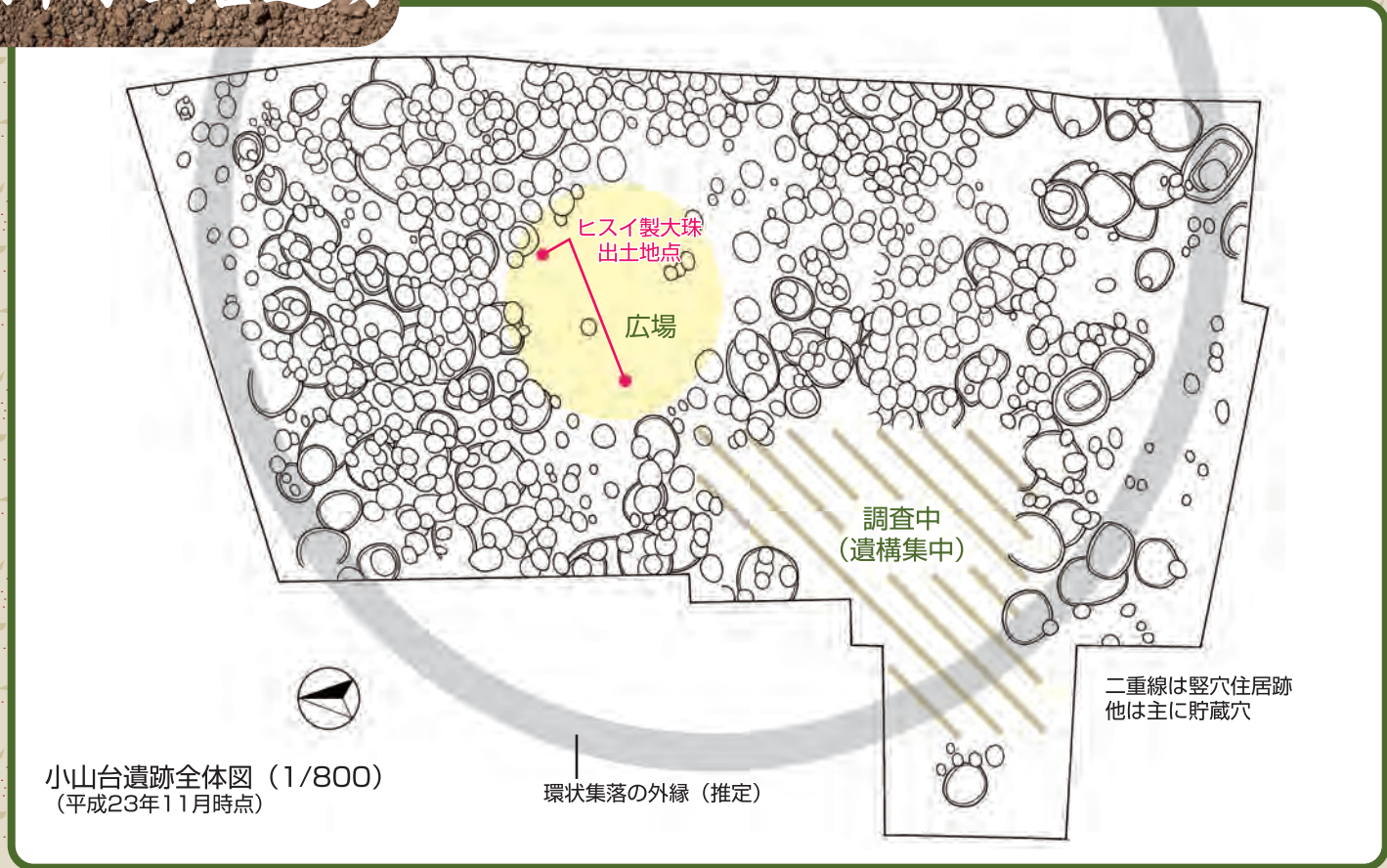
香取市吉原三王遺跡
袖ヶ浦市文協遺跡

埋文・アラカルト

平成23年度出土遺物巡回展
平成23年度千葉県遺跡調査研究発表会

【発掘調査速報】
柏市小山台遺跡

掘り出された環状集落!!



柏市の北部で、つくばエクスプレスの柏たなか駅に近い小山台遺跡は、これまでに40地点以上の発掘調査が行われてきました。その中の第36次調査地点とその付近では、縄文時代中期の貯蔵穴群やそれを囲むように竪穴住居跡群がたくさん発見されています。住居跡などの分布は直径約150mにも及び、環状集落と呼ばれています。

環状集落の中心には住居などが建てられていない広場があり、その付近からはヒスイ製の装身具も見つかっています。集落の中央広場では、祈りやマツリなどが行われていたのかもしれません。



貯蔵穴から見つかった縄文土器



ムラの中央広場から見つかったヒスイ製の装身具

この装身具は、「大珠」と呼ばれるもので、広場をもつ環状集落や地域の拠点となる大規模な集落から発見される例が多く、集落内の有力な人物が所有していたようです。

香取市吉原三王遺跡

墨書土器

最新の県指定有形文化財

東関東自動車建設に伴って発掘調査が行われ、この遺跡の北西1.5kmほどに有名な香取神宮が位置しています。

発掘では、奈良・平安時代などの多くの竪穴住居跡とともに、住居群を区画するような溝なども見つかっており、古墳時代後期の6世紀後半頃から平安時代前半の11世紀頃まで営まれていたと考えられます。

今回県の有形文化財として指定されたのは、合計176点に及び墨書土器（文字などが書かれた土器）です。なかでも、1軒の竪穴住居跡から出土した墨書土器には、長い文章が書かれたものがいくつかあり、その文字内容から、香取神宮に関係の深い「香取郡大槻（坏）郷」の女性の交替に関わるようすを読み取ることができます。また、「吉原大畠」、「吉原仲家」などの墨書土器は、香取神宮周辺の地名と思われ、地域の人々が集まって、この遺跡で交替に関する何らかのマツリを行っていた可能性が考えられます。

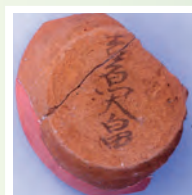
「香取郡大坏郷中臣人成女之替承」



左の長文墨書土器は、香取郡大坏郷に住む「中臣人成女」という女性の交替に関する内容と判断できるでしょう。最後の「承」は、その内容を「承知」とするという文字、または、土器の年代に相当する「承和」という年号を指しているかもしれません。



▲「大門」（施設名?）



◀「吉原大畠」（地名）



「八富」（地名）▶



▲「刀自女」（女性の名前）

遺物紹介
コーナー

袖ヶ浦市文脇遺跡

解明が進む大量の古銭

前号で紹介しました大量の古銭の資料調査が現在も行われており、内容が徐々に明らかとなってきました。

径65cmの土坑のなかに、径40～41cmの木製容器を置き、なかに銭をびっしりと詰め、木製の蓋をしていました。容器は、曲げ物（檜や杉などの薄い板を円筒形に曲げ、桜や樺の皮ひもでとじ合わせ、これに底をつけたもの）で、きわめて薄い皮一枚が部分的に残っている状態でした。

取上げられた銭は、約3万枚（文）確認されました。径3～4mmのわらの紐で結ばれ、一縷97枚前後の「縷銭」が複数連ねて納められていました。

当時は、「省百法」という取り決めにより97枚前後（一縷）で百文として流通していました。

木製の蓋の状況



取められた銭の状況



珍しい銭種



わら紐で結ばれた縷銭の状況



上段右の写真は大量の古銭の中から見つかった貴重な銭です。中国前漢の四銖半兩や、隋の五銖などの古い銭、日本の皇朝十二銭のひとつである富壽神寶も、保存状態がきわめて良好でした。他には、高麗王朝・金王朝などの比較的発行数の少ない珍しい種類も含まれていました。

